

えどがわくない ちからいし
江戸川区内の力石

江戸川区の神社境内に、やや細長い丸石が1個または数個置かれている光景をよく目にします。これは「力石」といって、江戸時代から明治時代にかけて、村の若者が力くらべ・力だめしにつかった石です。持ち上げた石を、肩より上にさし上げ(高く上げ)競うことを「さしっこ」といい、「さしっこ」に使う石なので「さし石」とも呼ばれました。

力を要する米俵の運搬や農作業の多かった江戸川区内には、昭和62年(1987)までの調査で82カ所に合計332基の力石があり、東京都内でも最多です。

現在置いてある場所については、力くらべ大会やその練習が行われていた神社境内が35カ所で最も多く、次いで個人のお宅の庭、寺院の境内、墓地、小学校の校庭などにもあります。墓地にある力石は、後にその石を持ち上げた人(力持ち)の墓石となったものです。また神社の富士塚の積み石として再利用されている石もあります。

いずれも貴重な民俗資料であり、北葛西四丁目の稲荷神社の12基と、船堀六丁目の日枝神社の15基の力石群は、平成22年(2010)3月に江戸川区有形民俗文化財に登録されました。



稲荷神社(北葛西四丁目)の力石群



日枝神社(船堀六丁目)の力石群

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)

力石に記された重さ

力石は、長さ数10cmの楕円形の滑らかな石で、「さし石」「力石」「大王石」などのほか、^{ごじゅうかんめ}「五十貫目」「三十ヰ」などの重量の表示や、さし上げができた人の名前、石を提供・奉納した人の名前などが刻まれている石もあります。区内の約3分の1の力石には重量の表示があり、30貫から50貫台が多く、少ないのは18貫、最高は真蔵院(東葛西四丁目)の「九十貫余」です(1貫は3.75kgで、実重量は表示の8割といわれます)。

一人前の男性が持ち上げられる重量は、米俵1俵分16貫(約60kg)位が最低基準であり、力自慢をするためには、それ以上の重量の石で競い合いました。なお、香取神社(葛西二丁目)の力石の「^{あずき}小豆三(斗)」銘は、小豆の量を単位とした重量を表しています。

力石に刻まれた力持ちの名

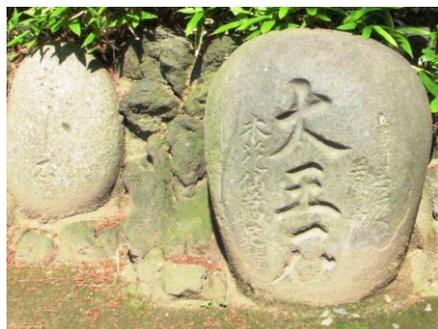
区内の力石の半数には人名が刻まれており、その数は世話人を除いて94名が確認できます。中には、当時江戸で有名だった力持ちの四股名^{しこな}もみられます。このような力持ちは、相撲取りをまねて「力士」とも呼ばれていました。

例えば日枝神社に「五拾二貫目當所村鬼熊」と刻んである「鬼熊」は、船堀出身で本名を熊治郎といい、文政・天保年間(1818~1843)ごろから明治初期にかけて活躍した力持ちでした。^{かんだかまくらかし}神田鎌倉河岸の酒問屋豊島屋本店に奉公し、浅草観音境内や東小松川の善照寺^{しょうじ ひらいしょうてん}や平井聖天、北葛西の稲荷神社にも鬼熊の銘のある大型の力石が残されています。

そのほか2カ所以上に名を残しているのは、「桶長」こと船堀の長吉^{ぼつかせん}、「木花仙」こと池田仙蔵、「金杉藤吉」こと山口藤吉^{くらごろう}。また中川平蔵と中川倉五良の父子で、中小岩小学校の「八十五貫余中川倉五良」銘の力石は区内第二の重量です。



「金杉藤吉」のさし石
(二之江神社)



「木花仙蔵」の大王石
(善養寺)



「六拾八メ目」銘の力石
(天祖神社)

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)